

平成19年7月3日

理学系研究科大学院学生を対象とした  
「男女共同参画」に関するアンケート

理学系研究科では、大学院学生を対象に平成14年から男女共同参画に関する意識調査を実施しており、今回は大学院生を対象とする3回目の調査です。この調査を通してみなさんの意見を知ることにより、男女共同参画を推進する上で問題となる点を把握し、理学系の男女共同参画に関する活動の効果を検証します。さらに、この調査を通して教育・研究体制等の改善に向けて取り組むべき課題を明らかにすることにより、今後の男女共同参画活動推進の参考にしたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

なお、このアンケートの集計結果は、理学系研究科のホームページや理学系男女共同参画委員会の活動報告書に公表しますが、個人が特定できるような情報は公開しません。回答は、8月10日(木)までにアンケートの最後にある『電子メールで送信』ボタンを押して返信するか、プリントしたものを各事務室に提出してください。(本アンケートで収集したメールアドレスを第三者に提供したり個人を特定しようとすることはありません。)

理学系研究科男女共同参画委員会  
委員長 野中 勝

——男女共同参画とは？——

「男女共同参画」は、女性も男性も性別にかかわらず、誰もがその人らしく伸びやかに生きられる社会を目指します。少子・高齢化社会を迎えつつある現在、「男女共同参画」は、社会の重要な課題の一つとなっています。1999年6月に男女共同参画社会基本法が施行され、行政のみならず、国立大学協会、大学、学会もこの問題に積極的に取り組んでいます。東京大学では平成15年12月に「男女共同参画基本計画」が評議会で決定されました。(参照 [http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/d06\\_01\\_01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/d06_01_01_j.html))

理学系研究科では、2002年4月15日に男女共同参画WGが発足し、2006年度からは男女共同参画委員会及び男女共同参画室として体制が整備され、主に以下の活動を行ってきました。

—理学系研究科におけるこれまでの主な活動—

パネルディスカッション：第1回 2002年3月15日、第2回 2003年6月18日  
アンケートの実施（結果の概要はホームページに掲載）

大学院女子学生：第1回 2002年11月、第2回 2004年11月

大学院男子学生：第1回 2003年12月、第2回 2005年11月

教員：第1回 2003年3月

懇談会・キャリアガイダンス：2003年2月20日、2004年7月2日、2006年2月21日

活動報告書の作成：2004年4月（平成14年度～平成16年度版）

ハラスメント講習会（理学系研究科長主催）開催のサポート：

2004年5月19日 教授会メンバー

2005年3月18日 助手・ポスドク

2005年10月19日 教授会メンバー

理学系研究科男女共同参画基本計画の制定：2007年3月（4月より施行）

【アンケート項目】

A. 回答者の情報（該当するものを選択、または数字・名称を記入して下さい）.

1) 性別：  男性  女性

2) 学年：

3) 未既婚：

4) 子供： 人

5) 家族形態：

6) 所属専攻：

7) 日常的に研究に使用している建物： 館

8) 経済状況（収入）（答えは複数可）：

学振  奨学金  RA  アルバイト  親のサポート  パートナーのサポート  貯金  その他

9) 出身大学の所属学科または学部での女性比率（%）：

≤25  26-50  51-75  76-99  100

B. 女子大学院生の比率について

平成19年5月1日現在の理学系研究科修士・博士課程の女子学生の割合は、平均で 19.6%（物理 6.5%，天文 19.6%，化学 17.8%，地球惑星科学 18.8%，生物化学 28.4%，生物科学 40.0%）です [昨年 は平均18.4%でした]。参考までに、アメリカでは2003年の統計で理系の博士号取得女子学生比率は、物理は15%，天文学23%，化学33%，生物46%。イギリスの1997年の統計では、大学院女子学生は物理18%，化学34%，生物52%です。

10) 現在あなたが所属している研究室や大講座または専攻の同学年の女子大学院生の比率はどのくらいですか？

人 / 人中

11) あなたの所属する専攻における現在の女子大学院生の比率は低過ぎると思いますか？

はい  いいえ

12) 11)で「はい」とお答えの場合、比率はどのくらいまで高めるべきだと思いますか？

%

13) 大学院学生の女性比率が低い場合、院生全体の教育・研究指導に影響を及ぼすと思いますか？

はい  いいえ

14) 13)ではいとお答えの場合、それは女子大学院生にとって positive な影響ですか？

はい  いいえ

15) 13)ではいとお答えの場合、それは男子大学院生にとって positive な影響ですか？

はい  いいえ

16) 教育・研究に関して、あなた自身が男性または女性であるために優遇されていると感じたことはありますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような時ですか？

17) 教育・研究に関して、あなた自身が男性または女性であるために冷遇されていると感じたことはありますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような時ですか？

18) 上記 16, 17) ではいとお答えの場合、それらの原因の一つは女子大学院生が少ないためであると感じることがありますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような時ですか？

19) その他、研究・教育に関連して上記以外の男女差にかかわる問題があればお書きください。

### C. 女性教員比率について

理学系研究科教授会メンバーの女性教授比率は、2.6%（78人中2人）、講師・准教授・教授合計の比率は5.2%（平成19年6月1日現在155人中8人）となっています。8名の所属は、物理（准教授1、講師1）、地球惑星（教授2）、生物科学（准教授2）、生物化学（准教授1）、広報室（准教授1）です。自然科学系分野の女性教授の比率は、ヨーロッパの統計(2003)で、17カ国平均8.9%です（トップは22.4%のポルトガル、続いて高い順にポーランド・フランス・イタリア・スウェーデン・スロバキア・フィンランド・イギリス（7.7%）など）。また、2003年のアメリカの准教授／教授の分野別女性比率は、物理9.4／5.2%、化学20.5／7.6%、天文15.7／9.8%、生物24.9／14.8%です。

20) 世界各国と比べて理学系研究科の女性教員比率がこれほど低いという現状を知っていましたか？

はい  いいえ

21) 女性教員が少ないことは、教育上問題があると思いますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような問題ですか？

22) 女性教員が少ないことは、研究を発展させる上で問題があると思いますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような問題ですか？

23) 女性教員比率を高めるべきだと思いますか？

はい  いいえ

24) 23)でははいとお答えの場合、比率をどのくらいまで高めるべきだと思いますか？

%

### D. 学内の施設・環境について

25) 研究・教育の施設（教室、研究室）や建物設備（トイレ、更衣室、エレベータなど）について、男女が共に学ぶ場として困る点や改善すべき点がありますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどこ（建物など）のどのような問題ですか？

26) 大学院の生活環境における施設や設備以外のソフト面（夜間安全監視・管理のためのサービス体制など）について、男女が共に学ぶ場として困る点や改善すべき点がありますか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような問題ですか？

27) その他、学内の施設・環境に関連して上記以外の問題があればお書き下さい。

#### E. 女性の社会参画について

これまで「社会活動への女性の参画」を妨げてきた原因はさまざまですが、中でも出産・育児、パートナーとの共同生活、女性が高等教育を受け仕事を持つことに対する社会の偏見や慣習などが大きな要因となっています。

28) 一般的に見て、女性が仕事を持つことに賛成ですか？（複数回答可）

- a どのような状況でも賛成     b 結婚前ならフルタイムの職業でも賛成     c 結婚後はパートなら賛成     d 子供がいなければ賛成     e 結婚後は反対
- f その他

29) 結婚後あるいはパートナーとの生活を始めた後、あなたが男性の場合パートナーが仕事を続けることにどのような状況なら賛成ですか？あなたが女性の場合は、どのような状況なら仕事を続けますか？

- a どのような状況でも     b フルタイムの職業でも家事・育児がこなせれば  
 c パートなら     d 子供がいなければ     e 状況によらず反対（仕事は続けられない）  
 f その他

30) 家事の分担についてどのようにお考えですか？（未婚の方は一般的にどうあるべきとお考えですか？）

- a 男女ができるだけ平等に協力すべき     b 女性が主に行うべき     c 男性が主に行うべき  
 d その他

31) 育児の分担についてどのようにお考えですか？（未婚の方は一般的にどうあるべきとお考えですか？）

- a 男女ができるだけ平等に協力すべき     b 女性が主に行うべき     c 男性が主に行うべき  
 d その他

32) 育児・介護休業法に定められている育児休業制度では、1歳に満たない子を養育する男女労働者は育児休業することができます。男性の場合あなたは将来この制度を活用して育児を分担したいと思いませんか？女性の場合、男性はこの制度を活用すべきであると思いませんか？

- はい     いいえ

いいえとお答えの場合、その理由はなんですか？

#### F. 進路等について

33) 進路や就職を考える上で、（研究・仕事の内容以外で）最も尊重したいことはなんですか？（複数回答可）

- 配偶者・パートナー     育児     子供の教育     両親の介護     地理的環境  
 職場環境（人間関係，雰囲気，男女比率など）     住環境     給料  
 その他

34) 就職の時、性別の違いが影響すると思いませんか？

- はい     いいえ

はいとお答えの場合、それはどのようなことだと思えますか？

35) 研究職や専門職では、性別の違いが問題になるとお考えですか？

はい  いいえ

はいとお答えの場合、それはどのような問題だと思えますか？

#### G. 男女共同参画について

36) 男女共同参画の観点から見た時、自然科学系の研究・教育機関に改善すべき問題があると思えますか？

はい  いいえ

37) 36)でははいとお答えの場合、それは以下のどのような要因によると思えますか？  
関係すると思われるもの全てにチェックを付けてください。

歴史  社会通念  大学制度  指導教員  家庭（両親）  結婚  育児  
 男性の考え方  女性の考え方  その他

38) 37)でチェックを付けた要因について、具体的にどのような問題だと思えますか？

39) 男女共同参画の推進にあたって、女性を優遇する制度等を（内容によっては期間を限定して）導入するという考え方がありますが、あなたは賛成ですか？

はい  いいえ

40) 上記 39) でははいとお答えの場合、次の中で賛成できるもの全てにチェックを付けてください。（\*は、女性比率が目標値に達するまでの期間に限るもの）

- 40-1) 女子学生に限定した奨学金（＊）
- 40-2) 常勤職を持たない女性研究者のためのフェローシップ
- 40-3) 競争的資金等の応募資格（たとえば、学振の特別研究員）における年齢制限に育児期間を配慮する
- 40-4) 出産・育児等で一時的に離職した女性を客員研究員等として登用する
- 40-5) 教員等の採用時の年齢制限や業績評価に関して育児期間等を考慮する
- 40-6) 教員等の採用にあたっては女性の比率を一定以上にする（＊）
- 40-7) 教員・研究員等で女性に限定したポストを設ける（＊）
- 40-8) その他

#### H. 理学系研究科の取り組みについて

41) 理学系研究科では、これまで男女共同参画に関するパネルディスカッションや大学院生と教員との懇談会を主催してきました。このような教員と学生との意見交換や交流の場（懇談会やネットワークなど）は、上記のB-Gの問題の解決に役立つと思いますか？

- はい  いいえ

42) パネルディスカッションや意見交換会の場が提供されれば、参加したいと思いますか？

- はい  いいえ

はいの場合、意見交換や交流方法のアイデアがあればお書き下さい。

43) 理学系研究科では、独自の「学生支援室」を開設し、大学院生、学部学生の皆さんの学生生活に対する疑問や悩みをお聞きし、それらの問題が解決されるようサポートしています。この「学生支援室」について要望やアイデアがあればお書き下さい。

44) 男女共同参画に関連してご意見がありましたら、自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。